



府大看護の強みとは

生活支援看護学領域 老年看護学分野 教授 長畑 多代



白鳥会の皆さん、お元気でいらっしゃいますか。私は今年、東京から羽曳野にやってきて23年目を迎えることになりました。本学に着任したのは、「大阪府立看護大学」が開学した翌年である1995年の春、阪神大震災と地下鉄サリン事件という世間を揺るがす未曾有の大惨事が立て続けに起きた大変な時でした。2期生の皆さんと「同期」ということとなりますので、覚えていらっしゃるかどうかはともかく、卒業生全員と何らかの形で関わりがあった数少ない教員の一人、ということになります。このように皆さんの母校に長く教員として勤めた立場から、府大看護の強みについて、思うところを述べさせていただきたいと思えます。

私が大学生の頃は看護系大学の数はまだヒトケタで、看護師養成課程新卒者のうち、大卒者の占める割合は1%に満たない状況でした。大阪府立看護大学が開学した1994年頃でもまだ40校に満たなかった看護系大学は、他の学問分野にはありえない異例のスピードで順調に増え続け、2017年現在で255大学266課程と20年あまりで7倍近くまで増加し、今では看護師養成課程新卒者の約3割強が大卒者が占めるようになりました。このような看護系大学ブームの先駆け時期に開学した本学は、これまで2,000人余りの卒業生を輩出し、優秀な看護職を育ててきました。1期生が卒業して20年たちますが、臨床現場にとどまらず教育、研究職としても活躍の場を広げており、現在6名の学部卒業生が府大の教員として活躍しています。近い将来、学部卒業生から教授が誕生するのではないかと密かに期待しているところです。

大学院教育においても20年近い歴史をもち、修士論文コースと11分野の専門看護師コースを有する博士前期課程、10専門分野を有する博士後期課程といった充実のラインナップで、多くの修了生が専門看護師や教育者、研究者として活躍しています。特に専門看護師コースの専門分野の数や輩出したCNS数は他大学を圧倒するものがあり、その実績を志望理由に挙げる受験生も大勢おられます。もちろん量的な側面だけでなく、研究の基礎的能力を養うコースワークの充実や実践的な専門教育など、質的にも優れたカリキュラムであると自負しています。特にここ数年、専

門看護師の認定資格を有する教員が増え、より実践的な教育が展開されるようになったことで、府大看護の強みは専門看護師教育であるということが自他共に認められたと感じています。

以上のような実績と歴史は、これまで培ってきた府大看護の大きな強みです。しかし、これからは老舗の看護系大学としての実績に頼るだけでなく、この強みをさらに進化させていかなければなりません。昨年からは看護学研究科では、「地域包括ケアシステムを支える人材育成とネットワーク形成によるシナジーモデルの構築」(通称NS-Coプロジェクト)という大阪府立大学キーププロジェクトに取り組んでいます。団塊世代が後期高齢者となる2025年問題への対応として、地域包括ケアシステムを担う人材と在宅医療に関連する施設の充実が求められており、より急速な高齢化の進展が予測される大阪の地域包括ケアを支えていくために府大看護の総力を結集し、地域包括ケア充実に向けた人材を育成するとともに、専門職のネットワークを構築して有機的な連携・協力体制の強化と地域包括ケアシステムの基盤強化に貢献しようというプロジェクトです。具体的には在宅医療を担う訪問看護師や医療機関の退院調整看護師の人材育成や、在宅医療関係職種の情報ネットワーク形成を行うことを通して、これらの活動による効果的なシナジーモデルの構築を目指しています。人材育成においてもネットワーク形成においても、専門看護師をはじめとする本学修了生の様々なご協力、ご尽力を得て本プロジェクトが回っていると実感しています。これからの看護は、医療機関のなかだけで完結するのではなく、住み慣れた地域でその人らしく過ごすための支援が求められ、本学の卒業生、修了生にはその中核を担うリーダーとして活躍されることが期待されています。このように卒業生、修了生の皆さんの看護のチカラこそが、府大看護の最大の強みです。人々の命と健康を守り、生活を支えていく看護実践能力を高めるために、そして看護の本質を探究し理論的基盤を築いていくために、また看護職としてのキャリアアップに向けて…等、仕事をしていく上での様々な分岐点において、ぜひ母校の門をたたいて大学院への進学を選択肢に入れてほしいと切に願っています。



大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）

創設20周年記念 第16回同窓会総会のお知らせ

平成30年
9月1日(土)

ホテルグランヴィア大阪
20階 孔雀/鶴寿の間

〒530-0001 大阪市北区梅田3丁目1番1号
Tel 06-6344-1235(代)

10:30-15:00 (受付10:00～)

I部(10:30-12:30)

総会・特別講演

II部(12:45-15:00)

懇親会(生演奏あり)

特 別 講 演

講師 清水 健 氏



元『かんさい情報ネットten.』メインキャスター
(一社)清水健基金代表理事
『112日間のママ』
『笑顔のママと僕と息子の973日間』著者

参加費
3000円
懇親会費込

お問合せ先

大阪府立大学
看護学系同窓会(白鳥会)事務局
E-mail:shiratorikaikango@yahoo.co.jp



会長挨拶

大阪府立大学 看護学部4期生・大学院博士前期課程8期生 真砂隆太郎

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

昨年9月9日に第15回白鳥会総会・同窓会を開催いたしました。大阪府立大学 辻洋学長、卒業生室 上田勝彦室長より、大阪府立大学の近況とつばさ基金の概要についてお話しいただきました。つばさ基金は、話題のふるさと納税制度を利用しているものですが、今後はつばさ基金を利用し白鳥会から寄付を行っていきたくと考えております。これまで行ってきた白鳥会から大学への寄付を、よりニーズに合った形で、看護学類・看護学研究科の在学生支援に使っていただくようお願いしていきます。

また、平成28年度に着任されました北村愛子教授より「看護の魅力とプロフェッションフッドに基づくキャリア形成」のテーマでお話をいただきました。急性看護の最前線で活躍されている先生からお聞きするお話は、胸が熱くなるとともに、自分自身の活動に力を与えていただけるものでした。

また、白鳥会では、会員の活動に貢献できるように取り組んでおります。

看護学では、ケアの質の向上のために、現場でも研究をおこなうことが求められるようになり、本会では平成24年より会員への研究費助成をおこなってまいりました。さらに近年では、CNS養成など大学院教育を通じた専門性の向上も重視されるようになりましたが、大学院教育における学生の研究費捻出が課題の一つでもありました。そのため、昨年より大学院での研究も研究費助成の対象といたしました。会員の皆様が新たな一歩を踏み出すときの資源となればと思っておりますので、ぜひご活用ください。

白鳥会は平成30年に創立20周年を迎えます。会の歴史が深まるのに合わせて、会員の皆様もキャリアにおいて責任ある立場に就かれたり、全国様々なところで活躍されているかと存じます。創立20周年を記念して、著名な先生の講演をはじめ盛大な会になるよう準備しておりますので、皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

総会など既存の事業の運営にも四苦八苦している状況ですが、同窓会として、会員や在学生の活動のサポート、会員同士のネットワークづくりに貢献していきたくと思っております。

今後は、府立大と市立大との統合も具体的に進められていくこととなり、本会も今後のあり方を考えていく必要があります。会員の皆様のお力を借りながら、ますます白鳥会の活動を盛り上げていけるよう、努力していく所存です。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。



◆ 北村愛子先生の講演を聞いて ◆

大阪府立大学2期生
独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
看護部所属 中ノ亜沙美

大学を卒業し、看護師8年目になります。勤務先の病院で北村愛子先生の講演会の案内がありました。私は仕事で講演会に参加することができず、残念に思っていました。その時、同窓会の案内で北村愛子先生の話が聞けることを目にし、卒業後、はじめて同窓会に参加させていただきました。

専門看護師としての立場、患者様の闘病中の言葉の数々、目頭が熱くなる話ばかりでした。中でも、言葉で伝えられない人が体で訴える、モニター数値で訴える、その訴えを感じ取る感性が求められるという話があり、本当にその通りだと思いました。だからこそ、プロフェッショナルとしてその観察力、知識、アセスメント力を高めなければならないと改めて思いました。また、日本に旅行中の患者様が重症化し、最期の時と一緒に過ごすことも声をきくこともできない家族へ電話をつなぎ、モニター音を通じて「心臓の音をきいてあげてください」と最期と一緒に過ごすことができるように関わったという話が印象的でした。医療には限界があるが看護には限界はない、「看護は創造である」と感じました。

看護を学んだ原点である大学の恩師に会え、こうして貴重な話を聞き、看護を見つめなおす一日になりました。

◆ 同窓会に参加して ◆

大阪府立大学5期生
医療法人 慈心会あびこ病院
看護部所属 野中 恵子

私は、今ちょうど、看護師経験を重ねるにつれ、より自分が納得できるような患者様やご家族様に関わりが出来ないことやリーダーとしてのふがいなさに落ち込むことが増えていた時期でした。業務との狭間で悩むことも多く、自分の看護師としてのやりがいや今後の在り方やキャリアについて悩んでいる時期が続いていました。そんな時期に同窓会があり、北村先生から、看護の魅力やプロフェッションフッドについてのご講演をいただき、自分の日々の何気ない看護業務の中で、たとえ同じ時間を過ごしても自分の意識や気持ち次第で、患者様の心を開けたり、自分の中でやりがいや看護の意義を見出せるんだと改めて気づき、自分の看護観を見直す一助になり、私も私なりの看護師を見つけていきたくと思えました。

また、同窓会の中でお世話になった先生方とお話しできたことでも、ほっこりし、またがんばろうと思える機会になりました。私は、今回の同窓会をはたまたま友人に誘われたのがきっかけで参加しましたが、病棟勤務や日々の生活の中で忘れそうになっていた大学時代の純粋で前向きな気持ちを思い出すことのできた貴重な時間となりました。参加させていただき本当に良かったです。ありがとうございました。

平成29年度に就任された先生方からのご挨拶

着任のご挨拶

地域保健学域看護学類 准教授 **大江 理英**

昨春より、地域保健学域看護学類の教員になりました大江理英です。私は、看護基礎教育から専門看護師教育も含め一貫して「大阪府」と名のつく学校に学生としてお世話になってきました。学びの後は急性期病院で急性・重症患者看護専門看護師として生命危機にある患者とその家族と向き合ってきました。近年の臨床はチーム医療が推進されており、看護の力が求められることから、基盤となる看護

基礎教育や高度実践看護師にかかわる教育に焦点があてられる時代になったと感じておりました。そのような中で、春より学び舎での立ち位置が変わり、先生方の教育的配慮や研究力に多くの学びを得るとともに今までのご支援には感謝するばかりです。これからは、長い臨床経験の中で得たことと本学での学びを統合して、急性期看護学の教員として精進を重ねていきたいと思っております。

羽曳野の空は高く青く、見上げるといつも希望を感じます。小鳥のさえずりや四季折々の花々や本学での学びに生かされている自分に気づかされます。看護を目指す学生にも未来に希望をもち、よりよき学びを深めることができるように職責を果たしていこうと考えております。皆様、何卒ご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

家族支援看護学領域 小児看護学分野
准教授 **長田 暁子**

白鳥会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成29年4月より家族支援看護学領域・小児看護学分野の准教授に着任いたしました、長田暁子と申します。出身は兵庫ですが、東京の大学に進学した後、横浜市立大学附属の2つの病院で仕事をして参りまして、関西に戻るのには実に30年ぶりになります。地域によって生活習慣や文化は少しずつ異なり、生活を支える看護職にとってそれはとても大きな要素になります。そのような気づきも活かしながら、教育、研究、看護実践に取り組んでいけたらと思っております。

ます。

私が小児看護学と出会ったのは、新人看護師として配属された小児病棟でした。そこで小児がんや心疾患などの重い病をもつ子どもたちが、治療や入院生活の中にも楽しみを見つけ、学びを得て成長している姿を目の当たりにし、何かをやってあげることだけが看護ではないことを教わりました。ご家族との関わりの中から、子どもと家族と一緒にケアするという小児看護の面白さも実感しました。これらの体験が、子どもの看護に携わり続けることの原動力となり、その後の大学院修士課程への進学や、小児看護専門看護師の資格を得て看護の質向上を目指した実践、相談、調整、教育などの活動を行うことに繋がってきたように思います。

新たに出会う方々と共に、子どもの幸せに貢献できるよう励んで参りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



着任のごあいさつ

生活支援看護学領域 精神看護学分野
准教授 **富川 順子**

2017年4月より着任いたしました、富川順子と申します。日本赤十字看護大学を卒業し、兵庫県立大学大学院看護学研究科を修了してから、精神科病院での精神看護専門看護師や看護系大学での助教などをしつつ高知県立大学の博士課程を修了して、今年3

月までは堺市にある浅香山病院で精神看護専門看護師をしながら、訪問看護ステーションで精神科担当の看護師長をしておりました。他の科もそうかもしれませんが、精神科の臨床が好きな理由は、ありのままのその人と、一緒に年をとりながら生きていくことができるので、いくつになっても新しい発見と感動を体験できるからです。診療報酬削減とベッド数減少の中で難しい対応を迫られている精神科臨床看護ですが、学生さんにその魅力を伝えたり、専門看護師の後輩のお手伝いをできたらと思っております。加えて、精神障がいを持ちながら生きる人の生きざまを少しでも残していきたいと思っております。よろしくご挨拶申し上げます。



着任の挨拶

～10年後、20年後の看護のために～

基礎看護学領域 看護情報学分野
准教授 **森本 明子**

2017年4月1日付で、大阪府立大学地域保健学域 基礎看護学領域 看護情報学分野の准教授を拝命致しました。

私が担当しています看護情報学(Nursing Informatics)は、1992年に米国看護協会によって看護実践を支える一つの専門領域として位置づけられた新しい学問領域です。近年、電子カルテなどの医療情報システムの普及に加えて、医療情報連携のためのICT(情報通信技術)の活用など、医療分野において急速に情報化が推進されています。米国では既に一部の医療用ICTアプリが「医療機器」として承認されており、日本でも厚生労働省がICTを活用した「次世代型保健医療システム」の構築を目指しています。この流れを受け、昨年には、日本医師会が「日IT化宣言2016」を発表し、東京慈恵会医科大学附属病院が大規模なスマートフォン導入とともに日本での保険適用第1弾となった医療関係者間コミュニケーションアプリを導入しました。このように、高度情報化医療は目前に迫ってきています。

看護においても看護情報学の重要性が増しており、迫りくる高度情報化医療のための教育とともに、看護情報学分野の研究の発展が重要と考えています。看護情報学は、看護実践、看護管理、看護教育など看護のあらゆる分野を対象とすることが特徴の一つであり、研究内容も幅広いですが、看護情報学分野の研究はまだまだこれからと言えます。私自身は、特に、ICTを活用した生活支援・自己管理支援に関する研究が必要と考えていますが、単にICTを活用するのではなく、看護力を生かした支援システムの構築を目指したいと考えています。

また、EBM(エビデンスに基づいた医療)、EBN(エビデンスに基づいた看護)の重要性が言われて久しいですが、今後さらに質の高い看護研究が求められると考えています。私の看護実践の専門は成人保健・成人看護ですが、「統計学者としてのナイチンゲール」という書籍を読み感銘を受けてから、目の前の問題・課題を解決するために必要な疫学的研究手法(統計学を含む)を学んできました。これからも、疫学的研究手法で臨床、職域、地域の健康問題の解決を目指し、実践に還元されるエビデンスの構築に貢献したいと考えております。

10年後、20年後の看護のために、看護情報学および疫学的研究手法を用いた研究実践の今後の展望を私の着任の挨拶とさせていただきます。

着任の挨拶

療養支援看護学領域 助教 **中村 雅美**

2017年4月に、療養支援看護学領域の助教に着任いたしました中村雅美です。大阪府立看護大学卒業、大阪府立大学大学院博士前期課程修了で、本学は母校になります。母校に教員として勤められることに心より感謝いたします。

「生命」に関わる臨床経験を積むなかで、生命の神聖さやかけがえのなさをより強く感じるようになりました。また

ちょっとした体位変換が心地よい眠りを促したり、煩雑な業務の見直しがりスクマネジメントの視点から安全な看護につながったりと、安全・安楽な看護を提供することがどれだけ患者さまにとって重大なことなのかを深く理解できるようになりました。これらの臨床での経験談を組み込みながら、「生命の尊厳」、「安全・安楽な看護」の重要性、看護のもつ力の大きさを伝えていきたいと思っています。一方、看護とは何かという疑問に直面し、大学院博士前期課程での学びによって自分なりの答えにたどり着きました。看護を志し、夢を抱いている学生たちに、これまでにお世話になった先生方を思い出しながら、看護学のすばらしさを感じる力の種をまけるよう、尽力したいと思っています。

新任の挨拶

基礎看護学領域 助教 **富田 亮三**

白鳥会会員の皆様、初めまして、富田亮三(とみたりょうぞう)と申します。平成27年より基礎看護学領域の非常勤助手として学部教育に携わらせていただき、この度、平成29年度10月より基礎看護学領域の助教に着任いたしました。大学教員であると同時に、大阪府立大学大学院博士後期課程の学生でもあり、大学教員と大学院生という二足のわらじを履いております。

大学院では、卒後2・3年目の看護師を対象に同期看護師との成長につながる協働をピア・コーチングとして捉え、その様相や効果、関連要因について研究を行っております。自分の臨床での経験から、同期看護師は精神的な支えとしてだけでなく、看護師としての成長を促す大切な存在であると思います。その同期看護師との関係を明らかにする

ことは、臨床の看護師の方の成長の一助になるのではないかと考え、臨床現場でも活用できる研究成果を目指し研究に取り組んでおります。

現在行っている研究は、看護師の方を対象としておりますが、「同期」の存在が成長に影響を及ぼすという考えは、学類生においても当てはまると考えます。一部の看護系大学では、「協同学習」という学生同士での学習方法を取り入れているところもあり、学生同士という横のつながりも注目され始めております。学生同士が互いに刺激し、切磋琢磨することが、自律性をもった看護師への第一歩になるのだと考え、そのような学生に成長してもらえるように、大学教員として支援していけたらと思います。

日々の学類生との関わりを通じて自分自身を振り返ることが多くあり、大学教員としての未熟さを痛感させられますが、学生との関わりが自分を成長させてくれるため、自分の糧として大学教員としての能力の向上につなげていきたいと思っています。今後も学生との関わりを大切に、学生を中心とした支援が行えるように努力して参ります。どうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第24回杏樹祭「杏bition」を終えて

大阪府立大学 羽曳野キャンパス 第24回杏樹祭実行委員会 委員長 大崎 麻広
杏樹祭実行委員会一同

この度は杏樹祭への寄付、誠にありがとうございました。ここに杏樹祭での寄付金の活用について報告いたします。まず、毎年杏樹祭で開催しており多くの人に足を運んでいただく「吉本LIVE」です。今年、ダイアン・藤崎マーケット・アインシュタイン・ヘンダーソン・祇園といった5組の芸人さんたちにお越しいただきました。台風が接近しており大雨の中でしたが5組もの芸人さんに来ていただき、これらの方々は人気度・知名度があったので、さまざまな人が足を運び、大盛り上がるの吉本LIVEとなりました。吉本興業株式会社さんと契約を結ぶ際に寄付金の一部を使用させていただきました。他では、キャンパスの装飾やオブジェの制作に使う紙やテープなどの製作費、友好祭の方々にステージを設置していただく際の設置費に寄付金の一部を使用させていただきました。

今年の杏樹祭について報告いたします。今年の杏樹祭は、「杏bition」という言葉をテーマに掲げました。「ambition」

という単語には“大志”や“野望”といった意味があり、杏樹祭実行委員全員が伝統を引き継ぎながらも新しい事にチャレンジしようという同じ意志を持ち、今までにない杏樹祭をつくりあげようと委員会一丸となって取り組んできました。その結果、台風の影響で模擬店を縮小して行ったり、雨天ステージとして室内でステージ企画を開催したりということになりましたが、台風にも負けずあらゆる人が笑顔になれ、そして驚くほど楽しい学園祭を行うことができました。

白鳥会の皆様をはじめ、学生グループの皆様、後援会の皆様のご協力なしには第24回杏樹祭は成功しなかったと、杏樹祭実行委員会一同、心から感謝しております。ご支援、誠にありがとうございました。



第15回日本循環器看護学会学術集会を大阪で開催します

2018年10月27日（土）・28日（日）、大阪国際交流センターにて、大阪府立大学大学院看護学研究科旗持知恵子教授を大会長に、第15回日本循環器看護学会学術集会を開催します。大会テーマは「トランジションを支える変わりゆく社会に求められる循環器看護」です。病気の回復の過程や療養の場所の移行を支え、その人らしく生きることを支えていくケアについて、議論を深めてみませんか？教育講演、ランチョンセミナーなど多彩なプログラムを企画しています。演題募集期間は3月5日～5月9日となっています。多くの方の参加をお待ちしています。詳細はHPをご覧ください。

(<http://www.jacn.jp/seminar/meeting/>)

府大大学院でキャリアアップ！ 慢性看護のスペシャリストを目指しませんか？

大阪府立大学大学院看護学研究科慢性看護学分野では、修士論文コース、専門看護師コースでさまざまなサブスペシャリティをもつ看護師が学び、修了後は、専門看護師や大学教員として活躍しています。現在、3年前に本学を卒業した2名の修士論文コースの学生を含め、8名の大学院生が慢性看護学分野で学んでいます。大学院では理論や研究方法等の講義のみだけでなく、海外の学会に参加したり、療養学習支援センターで実施している患者会を実際に運営したり、病院や地域の訪問看護ステーション等での演習や実習も行います。大学院教育は、看護を考える鍵となるものをつかみ、新たな慢性看護、自分自身を見出す機会となります。一步を踏み出して、母校の大学院で学んでみませんか？

(<http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/manseikangoken/>)

大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会) 平成28年度会計報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

前年度繰越	8,838,972円
収 入	1,454,524円
支 出	860,427円
収支差引額	594,097円
(平成29年度へ繰り越し)	9,433,069円

収入の部

科 目	金 額
平成28年度入学者127名分 (@10,000×127人)	1,454,406
終身会費 上記以外 13名分 (@10,000×7人) (@20,000×6人)	(※終身会費の振込み手数料(5,450円)、送金料(144円)を除く)
その他 (受取利息)	118
合 計	1,454,524

支出の部

科 目	金 額
寄附金	
図書寄贈	102,179円
杏樹祭実行委員会寄附金	100,000円
研究助成	100,000円
総会費	4,946
業務委託費	462,990
会議費 (年2回実施)	23,218
消耗品費	0
人件費	26,000
その他 予備費-1 (支払手数料)	4,894
その他 予備費-2 (式典・校友会等出席経費)	36,200
その他 予備費-3 (同窓会費返金)	0
合 計	860,427

以上の通り会計報告致します。

平成29年3月31日

大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会)

会 長 真 砂 隆太朗 

会 計 安 本 理 抄 

平成28年度同窓会会計の諸帳簿、書類などの監査の結果、適正に執行されていることを認めます。

大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会)

会計監査 富 田 亮 三 

深 山 華 織 

「ファーストペンギン」

東京同窓会 副会長 山田 昭正

東京同窓会と白鳥会のお付き合いは平成21年の校友会の発足がきっかけだったと思います。平成22年版会報に当時の濱口重紀会長に「はじめまして『白鳥会』です」と題して寄稿頂き、その年2月の新年会に初めて出席して頂きました。その後会報への寄稿と新年会への参加は前田一枝会長に引き継がれました。

そして平成25年の創基130周年記念事業では東京記念式典を白鳥会、女子大・斐文会東京支部と3同窓会で行いました。大学関係者等を含め約300人が出席し盛大な会になりました。馴染みの少ない白鳥会の皆さんへPRについては前田会長と相談しましたが、十分浸透しませんでした。あれから5年が経とうとしています。

平成28年からは真砂隆太朗会長に引き継がれました。これまで先輩の皆さんが積み上げてきたこの実績を大事にして、また一つひとつ積み上げて行きたいと思っています。

平成29年の新年会には白鳥会からは真砂会長と浮舟副会長、それと田中京子、杉本吉恵両先生にもご参加頂きました。

折角の機会です、先生方がお見えの時に是非参加頂き先生との久しぶりの再会を楽しんでください。そして少しずつ参加する仲間を増やしていき、白鳥会会員同士の交流の場になればいいと思っています。誰か「ファーストペンギン」になって頂けませんか。

皆さん方が参加しやすい様、真砂会長や先生方とも相談し東京同窓会がお手伝いします。

皆様方と東京同窓会でお会いできるのを楽しみにしています。

幸せカップル(874組・1,748人)誕生のお手伝いをして、開設51年目へ

私共「大阪女子大学同窓会 斐文会結婚相談室」は、1967（昭和42）年10月、卒業生の縁組みのお世話をするために、教員を含む斐文会会員有志によって開設され、昨秋50周年を迎えることができました。

菊薫る11月23日の開設50周年記念祝賀会は、日頃お世話になっております校友会並びに斐文会役員の方々



のご出席を得、意義深い節目の会となりました。貴同窓会からは、会長の真砂隆太郎様、助教の富田亮三様がご

出席くださいました。

これもひとえに、2005（平成17）年の大阪府立三大学統合を機に、お仲間になってくださいました校友会関係の皆様方のご支援の賜と、深く感謝しております。

私共は、これまでの50年間に培ってまいりました堅実なご紹介方法を守りながら、これからも真摯な活動を続けてまいります。

白鳥会の皆様、ご本人様のご入会はもとより、ご子女やお知り合いの方々もご紹介くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

お問い合わせ先 / TEL 06-6390-1518
開室日時 / 月・水・金 13:00～19:00
(祝日の場合は18:00まで)
土・日 13:00～18:00
入会金 / 10,000円 年会費 / 10,000円

事務局からのお知らせ

○白鳥会のホームページをご覧ください

皆様に同窓会の活動や母校の“今”を知っていただくために、随時、情報を発信しております。ぜひホームページをご覧ください（QRコード参照）。昨年度より、大阪府や大阪府下の自治体からの依頼で常勤・非常勤保健師や養護教諭の採用情報を掲載しております。不定期更新ですが、ぜひご活用ください。

○同窓会役員を募集しています

同窓会の運営にご協力いただける方を募集しております。今後、ますます同窓会活動を発展させるためには、皆様のお力が必要です。主な仕事は、会報誌の作成、同窓会総会の企画・運営です。同窓会を発展させていくためにも、多くのアイデアをいただき楽しく運営をしていきたいと思っています。ご希望の方は、白鳥会HPからお問い合わせください。

○同窓会費（終身）未納の方へ

同窓会活動は、会員の納める会費で運営しています。未

納の方には、年に1回この会報誌と一緒に納入のお願いの文書と振込用紙をお送りさせていただいております。ご協力よろしくお願いいたします。

○住所や姓名変更のお願い

例年、会報誌や同窓会総会の案内を送付していますが、宛先不明の方が多くなっております。住所や姓を変更された方は、白鳥会HPから変更のご連絡をお願いいたします。母校の情報をお届けしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

○翔システムをご登録ください

大阪府立大学同窓会である校友会には“翔”というネットワークシステムがあり、様々な交流・情報交換が可能です。大阪府立大学校友会HP (<http://www.opucr.osakafu-u.ac.jp>) から登録が可能です。

〈白鳥会HP QRコード〉



平成29年度 同窓会役員を紹介

会長：真砂隆太郎
副会長：浮舟 裕介、阿川 勇太
書記：野中 翔太（会報誌）、高 知恵
会計：富田 亮三、山内 加絵
会計監査：安本 理抄、勝山 愛
事務局長：山口 舞子
事務局：深山 華織、根来佐由美、中村 雅美
前田 一枝、宇田川直子

新学年幹事

学類生：阿部 竜次、飯沼 雄輝、柳本 啓太
院生：西川 沙織

編集後記

野中 翔太

やわらかな日差しが心地よく感じられる季節になりましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？今年度は白鳥会創設20周年という節目の年となります。ここまで続けてこられたのも、皆様の日頃の御活躍の賜物であると感じております。さて今年度は9月に20周年総会を予定しております。これまでの歴史を感じながら、また新たな歴史を紡ぐ場所として皆様の御出席をお待ちしております。最後になりますが、御多忙の中会報誌に御寄稿くださいました皆様に心から御礼を申し上げます。